

薬効・薬価リスト平成28年版 追補
(平成28年8月30日告示・31日適用)

内 用 薬

先	デュオドーパ配合経腸用液 (アツヴィ)	100mL1 1セット 1169101S1020/622509401	15,004.30
---	------------------------	---------------------------------------	-----------

1169J 抗パーキンソン剤 レボドパ・カルビドパ水和物

適応 レボドパ含有製剤を含む既存の薬物療法で効果不十分なパーキンソン病の症状の日内変動 (wearing-off 現象) の改善。

用法 本剤投与前の経口レボドパ量に応じ初回量決定。朝の投与及び持続投与に分け、胃瘻を通じ空腸に直接投与する。その後は症状により次の範囲で投与量調整。必要に応じ持続投与中に追加投与可。朝の投与として 5~10mL, 10~30 分かけて投与後、2~6mL/時で持続投与。1日の最大投与時間は16時間、1回あたりの追加投与は 0.5~2mL とする。症状により適宜増減するが、朝の投与は 15mL, 持続投与は 10mL/時、1日総投与量は 100mL を超えない。

注) 追加投与: ①1回 1mL から開始。②前回から 2時間以上あけ、頻回 (1日 5回を超える) に必要となった場合は持続投与の増量を検討。

禁忌 ①閉塞隅角緑内障②本剤 (成分) に過敏症の既往歴
(薬価基準収載日: 平 28.8.31, 投与: 14日まで)

先	ピコブレップ配合内用剤 (フェリング)	1包 7990103A1029/622508301	1,032.70
---	------------------------	------------------------------	----------

7990J 経口腸管洗浄剤 ピコスルファートナトリウム水和物・酸化マグネシウム・無水クエン酸

適応 大腸内視鏡検査及び大腸手術時の前処置における腸管内容物の排除。

用法 1回1包、約 150mL の水に溶解し、検査・手術前に 2回、経口投与。検査・手術の前日と当日の 2回投与 前日の夜及び当日の朝 (検査・手術の 4~9 時間前) の 2回、経口投与。検査・手術の前日 2回投与 前日の夕及び 1回目の服用から約 6時間後の夜の 2回、経口投与。以上、いずれも検査・手術の前日は低残渣食、当日は透明な飲料のみとする。1回目の服用後は 1回 250mL の透明な飲料を数時間かけて最低 5回、2回目の服用後は 1回 250mL の透明な飲料を検査・手術の 2時間前までに最低 3回、飲用。

注) 検査・手術が午後に行われる場合、前日と当日の 2回投与とする。

禁忌 ①本剤 (成分) に過敏症の既往歴②胃腸管閉塞症・腸閉塞の疑い③腸管穿孔④中毒性巨大結腸症⑤急性腹症が疑われる者⑥重度の腎機能障害 (クレアチニンクリアランスが 30mL/分未満)
(薬価基準収載日: 平 28.8.31, 投与: 14日まで)

先	ビムパット錠 50mg (UCB=第一三共)	50mg1 錠 劇 1139015F1027/622507901	215.60
先	” 錠 100mg	100mg1 錠 劇 1139015F2023/622508001	352.00

1139i 抗てんかん剤 ラコサミド

適応 他の抗てんかん薬で十分な効果が認められないてんかん患者の部分発作 (二次性全般化発作を含む) に対する抗てんかん薬との併用療法。

用法 1日 100mg, 2回分割経口投与より開始。その後 1週間以上の間隔をあげ増量。維持量 1日 200mg, 2回分割経口投与。症状により 1日 400mg を超えない範囲で適宜増減。増量は 1週間以上の間隔をあげ 1日量 100mg 以下ずつ行う。

注) 他の抗てんかん薬と併用。

禁忌 ①本剤 (成分) に過敏症の既往歴②重度の肝機能障害
(薬価基準収載日: 平 28.8.31, 投与: 14日まで)

先	ヘマンジオールシロップ小児用 0.375% (マルホ)	0.375% 1mL 劇 2900003Q1029/622510001	260.70
---	--------------------------------	--	--------

2900i 乳児血管腫治療剤 プロプラノロール塩酸塩

適応 乳児血管腫。

注) 原則として、全身治療が必要な増殖期の乳児血管腫に使用。

用法 1日 1~3mg/kg, 2回分割, 空腹時を避けて経口投与。1日 1mg/kg から開始し、2日以上の間隔をあけて 1mg/kg ずつ増量、1日 3mg/kg で維持。状態により適宜減量。

禁忌 ①本剤 (成分) に過敏症の既往歴②気管支喘息、気管支痙攣のおそれのある者③低血糖④重度の徐脈、房室ブロック (II, III度)、洞房ブロック、洞不全症候群のある者⑤心原性ショック⑥コントロール不良の心不全⑦重度の低血圧症の患者⑧重度の末梢循環障害 (レイノ一症候群、壊疽等) ⑨褐色細胞腫の患者⑩異型狭心症
(薬価基準収載日: 平 28.8.31, 投与: 14日まで)

外 用 薬

先	エピデュオゲル (ガルデルマ=マルホ)	1g 劇 2699805Q1020/622510101	159.60
---	------------------------	--------------------------------	--------

2699J 尋常性ざ瘡治療剤 アダバレン・過酸化ベンゾイル

適応 尋常性ざ瘡。

用法 1日 1回、洗顔後、患部に適量を塗布。

注) 3ヶ月以内に改善が認められない場合は中止。

禁忌 ①本剤 (成分) に過敏症の既往歴②妊婦・妊娠している可能性の婦人
(薬価基準収載日: 平 28.8.31)

※ (掲示事項等告示) 当品目は新医薬品の処方日数制限対象外。

注 射 薬

先	カイプロリス点滴静注用 (小野)	10mg 10mg1 瓶 毒 4291433D1026/622509501	23,982
先	” 点滴静注用 (小野)	40mg 40mg1 瓶 毒 4291433D2022/622509601	86,255

4291 抗悪性腫瘍剤 カルフィルゾミブ

適応 再発又は難治性の多発性骨髄腫。

用法 レナリドミド及びデキサメタゾンと併用。1サイクル目の 1 及び 2 日目は 1日 1回 20mg/m², それ以降は 1日 1回 27mg/m², 10分かけて点滴静注。状態により適宜減量。投与は 1, 2, 8, 9, 15, 16 日目に行い、12日間休薬。この 28日間を 1サイクルとし、12サイクルまで繰り返す。13サイクル以降は 1, 2, 15, 16 日目に投与し、12日間休薬。

注) ①体表面積が 2.2m² を超える患者は 2.2m² として投与量算出。

②10mg 製剤は 5mL, 40mg 製剤は 20mL の注射用水で溶解後、必要量を 5% ブドウ糖液で希釈。

禁忌 ①本剤 (成分) に過敏症の既往歴②妊婦・妊娠している可能性の女性

(※次頁に続く)

※ 「薬効・薬価リスト」追補の無断複製・転載を禁じます

薬効・薬価リスト平成28年版 追補
(平成28年8月30日告示・31日適用)

先	プララエント皮下注 75mg シリンジ (サノフィ)	75mg1mL1 筒	22,948
先	〃 皮下注 150mg シリンジ	150mg1mL1 筒	44,481
先	〃 皮下注 75mg ペン	75mg1mL1 キット	22,948
先	〃 皮下注 150mg ペン	150mg1mL1 キット	44,481
		2189402G4023/622508501	

2189i 高コレステロール血症治療剤 アリロクマブ (遺伝子組換え)

適応 家族性高コレステロール血症,高コレステロール血症 (心血管イベントの発現リスクが高く,HMG-CoA 還元酵素阻害剤で効果不十分な場合に限る)。

用法 75mg を2週に1回,皮下注。効果不十分な場合,1回150mg に増量可。

注) ①HMG-CoA 還元酵素阻害剤と併用。②アフエレーシスと併用する場合,アフエレーシス施行後に本剤を投与。

保険性 使用に当たっては,次の事項を診療報酬明細書の摘要欄に記入/①本剤の使用が必要と判断するに当たって参照したLDL-コレステロールの検査値及び当該検査の実施年月日②食事療法を行っている旨,及び患者の状況に応じ運動・喫煙等に関する指導又は糖尿病・高血圧症等の虚血性心疾患の危険因子に対する治療もしくは指導を行っている旨③投与中のHMG-CoA 還元酵素阻害剤の成分名及び1日投与量 (最大量でない場合は,最大耐用量である旨もあわせて記載) ④家族性高コレステロール血症以外の患者では,心血管イベントの発現リスクが高いと判断した理由 (冠動脈疾患,非心原性脳梗塞,末梢動脈疾患,糖尿病もしくは慢性腎臓病に罹患していることもしくはそのいずれかの既往歴を有すること,又は複数の危険因子が認められること) (平28.8.30保医発0830第1号)。

禁忌 本剤 (成分) に過敏症の既往歴

先	ルミセフ皮下注210mg シリンジ (協和発酵キリン)	210mg1.5mL1 筒	73,158
		3999441G1029/622510201	

3999i ヒト型抗ヒトIL-17受容体Aモノクローナル抗体製剤 プロダルマブ (遺伝子組換え)

適応 既存治療で効果不十分な次の疾患/尋常性乾癬,関節症性乾癬,膿疱性乾癬,乾癬性紅皮症。

用法 1回210mgを初回,1週後,2週後に皮下注。以降,2週間間隔で皮下注。

禁忌 ①重篤な感染症②活動性結核③本剤 (成分) に過敏症の既往歴